

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 畑中 久明 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504 号
TEL/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
<http://www.nihonkouren.jp>

No.370
発行 2025 年 4 月 10 日



東京

第 33 回ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい 全体会は盛り上がった

2 月 26 日 たましん RISURU ホール

いま、世界も日本も大きな曲がり角、転機にぶつかっています。それを受けて、私たち高齢者は何にどう取り組むかが問われたつどいの全体会でした。参加者も三多摩の人達の奮闘で目標の1000名を超え、上野千鶴子さんの講演はじめ、元気の出る集会になりました。基調報告は菅谷事務局長から、物価高騰、75 才以上の負担 2 倍化、マイナ保険証の強行などの社会保障の改悪に国民が苦闘する中、一方で大企業の大儲け、内部留保の激増という内部留保の激増という異常事態が進んでいることに年齢間の分断を乗り越えてとりくもう、6月の都議選、7月の参議院選で日本高齢者人権宣言を基本に据え、要求実現の機会としようと呼びかけました。

記念講演は上野千鶴子氏(東京大学名誉教授、NPO・WANウィメンズアクションネットワーク理事長)。「どうする どうなる介護保険

～おひとりさまの老後がアブナイ」というテーマで講演いただきました。高齢者が孤立している、させられている実態を踏まえ、どう対応していくのか、乗り越えていくのか。高齢期の最大の問題である介護を支えるはずの介護保険が国民・高齢者の人権を踏みにじり、介護保険を改悪し続け、改悪・存続の危機にさらされている。その改悪の内容は？改悪を食い止める運動に何が求められるのか、についてユーモアを交えつつ、厳しく指摘されました。国民民主や維新の会の尊厳死



などの動きに苦言を呈し、高齢者自身がいのちの尊厳を守る運動を強めることを求められました。

特別報告として、区民に寄り添う行政で奮闘する杉並区の岸本区長誕生の原動力となった内田聖子さんが、杉並区のとりのくみの現状と住民参加で進める苦悩と可能性について報告されました。多くの市や町でこれから選挙が行われます。その取り組みへのエールになった報告です。

その後、医療法人健生会の草島健二理事長

から「だれもが“助けて”と言える社会をめざして」のタイトルで立川を中心とした大規模な活動の報告がありました。続いて、三多摩健康友の会の武蔵村山支部の井上忠男さんから「高齢会員訪問 14 年間のとりのくみと特徴～80 才以上の会員の 24%の人が介護認定」が報告されました。14 年間で延べ7,260人を訪問し、聞き取り調査を行うとともに、介護・認知症予防にとりくむ健康友の会の持続的なとりのくみが報告されました。

(東京高連副会長 吉岡尚志)

ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい・分科会

2月8日(土)「ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい」第1分科会が開かれ今年度の東京のつどいが始まりました。5人の報告発言があり充実した分科会になりました。会場に16人が参加、Webから30接続がありました。府中のWeb接続会場には12人が参加しました。

2月20日(木)「ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい」第1学習講座が開かれました。「健康で文化的な最低限の生活を営む権利」というテーマで、東京都生活と健康を守る会連合会の田川英信さんが「生活保護のいろは」全日本年金者組合の木田保男さんが「年金は人権」と題して講演、質問もたくさん出て、充実

した学習になりました。会場には26人が参加しました。

ゆたかな高齢期をめざす東京のつどい第1分科会

だれもが安心して住み続けられるまちづくり

5つの報告発言を受けて話し合います
ぜひ参加を広げてください

- ① 江東健康友の会から
サロン大鳥での健康を守り孤立を防ぐ多様な活動
- ② 健生会・三多摩健康友の会から
独自の血液検査、地域の運動などPFAS汚染対策の取り組み
- ③ 東京保健生協から
多世代をつなぐハブの役割を担う「よみせ通りいこの家」
- ④ 東京民区連から
八王子松ヶ谷の団地再生プロジェクト見学報告
- ⑤ 年金者組合東村山支部から
助け合い・多彩なサークル・共同募所・つながりをつくる組合活動

ZOOM配信を行います。
ID: 972 6191 4904
パスコード: 402576
ZOOM参加は無料
下記メールに申し込んでくだ



第38回日本高齢者大会 in さいたま

第1回中央実行委員会を開催(3月10日)

第38回大会は中央団体と4県連(東京・埼玉・神奈川・千葉)の共同開催です。

第1回実行委員会は大会名称、会場、大会開催の意義と目的・スローガン・予算・参加費を討議しました。大会開催について国連女性差別撤廃委員会のジェンダー平等にむけての対日本政府への総括所見の内容は高齢期の運動にも位置付け、他団体と連携していくことが大事との意見がありました。大会参加費・大会予算案は大会参加を促進するために参加費の見直し、県連への還元など検討しました。4月19日の第2回中央実行委員会総会の提案に反映することになりました。

現地参加者目標は2日間の延べ3000人(全体会1500人、学習・分科会・移動分科会

等1500人)オンライン参加者数2日間の延べ800人(全体会500人、学習・分科会300人)。すべての都道府県より代表参加も含めて現地参加をめざします。今年度はオンライン会場を設けて参加者をふやす努力をします。

中央実行委員会、組織体制、会議運営について到達点を確認しました。今大会は中央実行委員会に◇企画部門◇宣伝部門◇当日運営部門◇総務部門4部局を設け、各部に副実行委員長・事務局次長・事務局を配置します。

大会企画について

- ①記念講演の講師は芝田 英昭 社会保障研究者・水彩画家・(立正大学教授・博士)。
- ②企画担当者会議はすでに2回の会議を開催

し、「喜び、楽しみ、ワクワクできる。元気になる、来て参加してよかった」と思える内容にしようと検討しています。今年は語り継ぎことを大事にする。映画上映／井戸端会議／旅への

誘い／短歌、俳句／朗読、読み聞かせ／語り継ぐ、引き継ぐ(戦争、原爆(被団協等)、沖縄戦、東京空襲、兵隊・軍隊の実相、などなど盛沢山の意見が企画会議ではだされています。

新潟

「日本高齢者人権宣言を学ぶ」学習講演会を開催



3月23日、新潟県高齢期運動連絡会は鈴木静先生を講師に迎えて、「日本高齢者人権宣言を学ぶ」学習講演会を開催しました。参加者は19人でした。

《参加者の感想》

ご講演、本当にありがとうございました。
私自身は、人を差別しないし人権を大事にしようと思っている人間だと自認していたが、まだまだ甘かったと反省させられた。アンナさんの話や KEIKKO さんの話を聞いて頭をハンマーで殴られた。北欧の皆さんの考え方や生活の姿勢に感心した。高齢になっても認知症になってもその人を一人の人間として接する。これまでのように生活することを普通に保障することの大切さ。良い思い出が残るからと普通に接することを当たり前のこととしていること大切さ。自分のこれまでの「常識や良心」について、しっかり考えてみたい。自治体に「高齢者人権宣言」を知らせていきたいと思いました。事務局団体の皆さんと話し合っ、実行計画を立てたいと思います。(70代)
スウェーデンの介護の実践の素晴らしさが、

労働者の権利擁護、多様性の確保と裏表の関係にある、との指摘が胸に落ちました。「高齢者の人権」が、単に生活していけるということだけでなく、豊かな社会的交わりなども含むものだということ、スウェーデンから横浜への電話のエピソードなどからも感じ取ることができました。(50代)

高齢者の人権宣言ができると聞いた時に、どうやって広めたら良いのか悩んだことを思い出しました。新潟の人は他の人のために声を大きくするが、自分自身となると、自分の権利なのに意識する人が少ないと介護の現場で良く感じていました。こういった学習の場やケアをする人々も学べる機会を増やすことが大事だと改めて思いました。(40代)

北欧の高齢者施設の現状をお聞きし、目からうろこ。でも高齢者の人権を守ることがすべての人権を守ることだと理解。今度運動していかなければならないと思いを新たにしました。(70代)

日本の高齢者は、もっと自分たちのための主張をしてよいと思う。目の敵にされて負担を強いられるのは間違っている。物わがりの良い高齢者になる必要はない。これまで日本を支えてこられたのは皆さんのだから、もっと自己主張したほうが良いと思う。(40代)

大変忙しい中、講演いただきありがとうございました。
一昨年、日本高齢者大会に参加し、全国的に人権問題について論議を深め、準備を進めて

いることはしていましたが、2022年11月に採択されたこと、おめでとうございます。高齢者の人権を考えたとき、とりわけ大切なことは生活の自立が保障されることが大切だと思います。また、医療・介護など、高齢者の豊かな日常を支えるエッセンシャルワーカーの皆様の生活保障も大切なことです。今日の話に合ったとおり、生活の自立に向けての取り組みが緊急に求められていると思います。共同の取り組みが求められています。(80代)

「日本高齢者人権宣言を学ぶ」学習講演会 アピール

世界はタダならぬ先が見えない時代に突入した。

大国は覇権を競い、罪なき人々が殺され、苦難にあえいでいる。

絶え間ない戦争は、リーダーの心を蝕み、他者を攻撃し、人間的な寛容の精神を破壊している。

戦争は自然も文化も破壊し、地球温暖化を急激に推し進め、あらゆる地域で気候危機を深刻化させ、大災害となって平穏な生活を脅かしている。

日本では、石破政権が高齢者にターゲットを絞り、人権を粗末にする政策を次々と打ち出し実行している。

高齢者医療費の2倍化、訪問介護報酬の引き下げで世代間対立をあいり、果てには「高額療養費制度の自己負担引き上げ」を強行しようとしている。これには忍耐強い日本人も黙ってはおらず、反対世論が盛り上がり、石破首相は「一時停止」を余儀なくされた。しかし、「この秋までに仕切り直す」と言明しており、今後も予断は許されない。

私たちは「日本高齢者人権宣言」を学び、今こそ人権を輝かせるときであることを心に刻んだ。

さあ、これからだ。力を合わせて人権を大切にすたたかいを大きくしよう。

「安心して老い」、安心して「老後」を暮らせるように頑張ろう。

2025年3月23日

新潟県高齢期運動連絡会

「日本高齢者人権宣言」を学ぶ学習会参加者一同

第34期(2025年度)日本高齢期運動連絡会定期総会 第38回日本高齢者大会第2回中央実行委員会総会

【日時】2025年4月19日(土)

第1部・2部 定期総会・中央実行委員会総会 10時30分～12時30分(予定)

学習企画 13時30分～15時00分(予定)

『社会保障をめぐる情勢と課題について』(仮題) 長友薫輝 佛教大学准教授

【会場】東京都生協連3階会議室+Webシステム併用